

第1章

観光の現状と課題

- 1 観光の現状
- 2 光市観光基本構想の総括
- 3 アンケート調査結果
- 4 本市における観光の課題

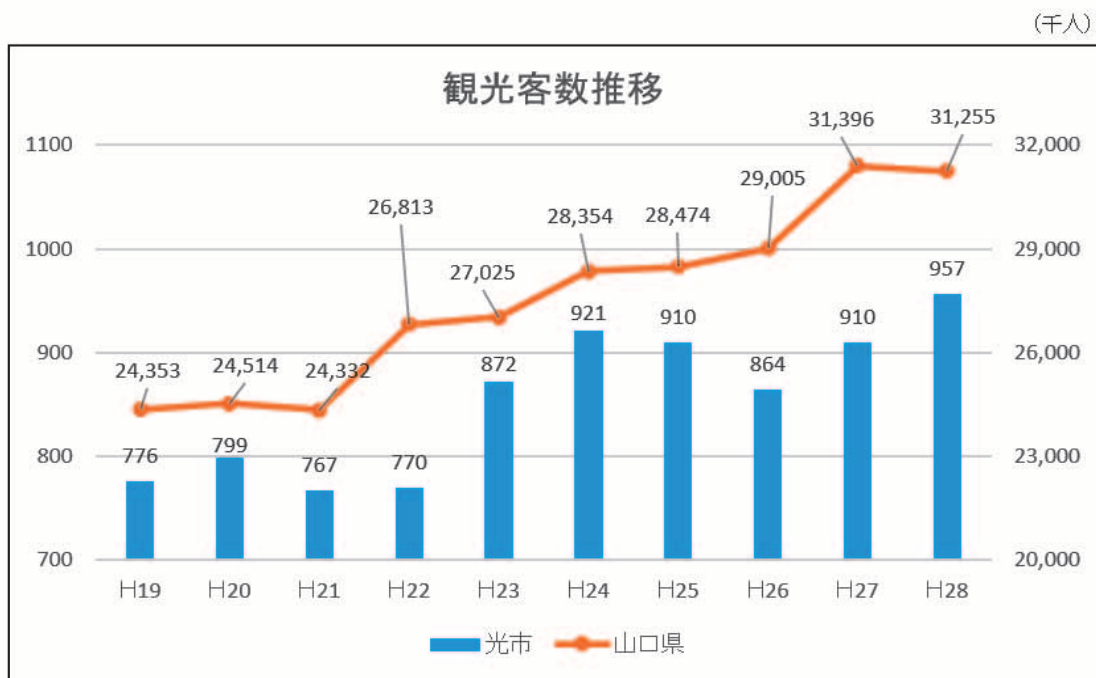


梅小町

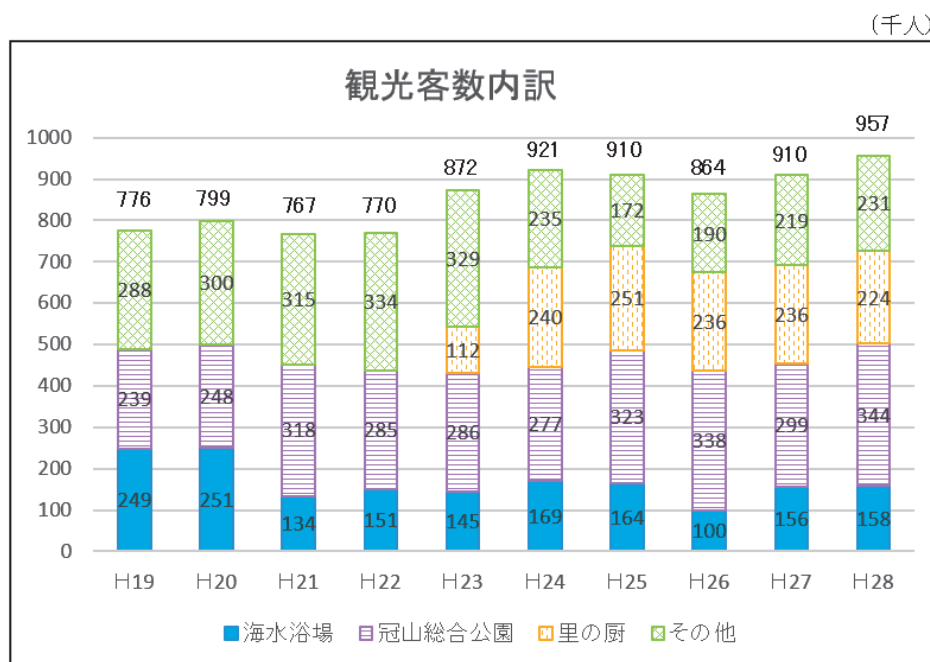
1 観光の現状

本市においては、平成18年度に策定した「光市観光基本構想」に基づき、虹ヶ浜での花火大会の開催や四季折々の花を活用したシリーズイベントの開発、歴史・自然をテーマに巡る観光ルート of 構築、観光案内所の設置など、各種施策を展開してきました。この構想が、平成28年度をもって10年間の計画期間を終えましたが、引き続き、本市の観光振興を図るため、平成27年度策定の「光市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げた「『光』の発掘！発信！知名度向上戦略」を踏まえつつ、平成28年度に策定した「第2次光市総合計画」を往來の基本構想部分と位置付け、これに基づいた取組みを具現化する計画として「光市観光アクションプラン」を策定することとなりました。

本市の過去30年間における観光客数の最高値は、海水浴客が80万人を超えた、平成6年の113万4,000人ですが、「光市観光基本構想」策定後の平成19年には77万6,000人となりました。その後、平成23年の光市農業振興拠点施設「里の厨」のオープンや、平成24年の三島温泉健康交流施設「ゆーぱーく光」のオープン、また、平成20年から開始されたイベント「ばら祭」や「みたらい湾花火大会」などの開催により、平成28年には95万7,000人となっています。

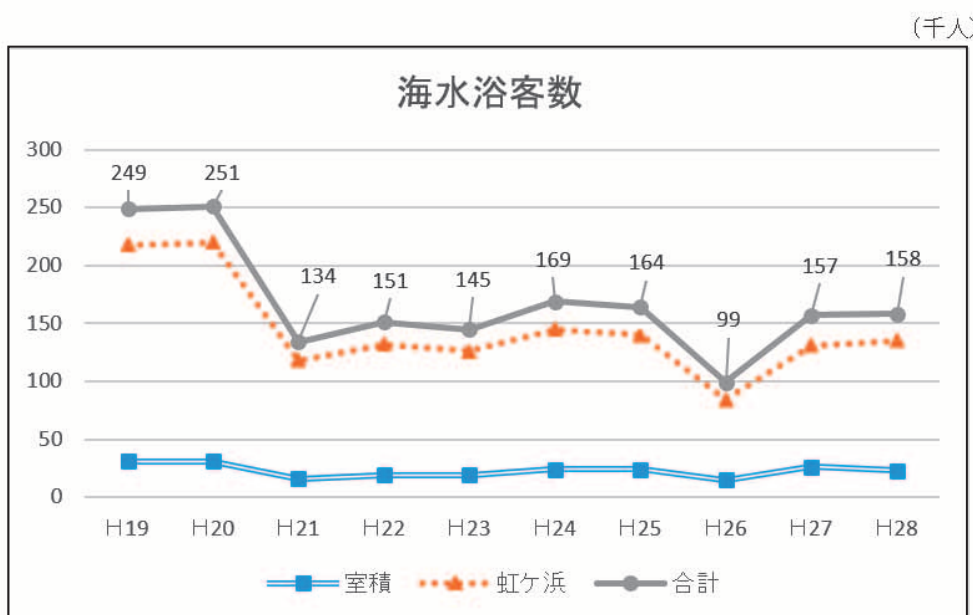


本市の主な観光地の観光客数内訳を見ると、市全体の観光客数に対し、海水浴客や冠山総合公園、里の厨に大きく依存しています。主要観光施設の観光客数の推移は、以下の通りです。

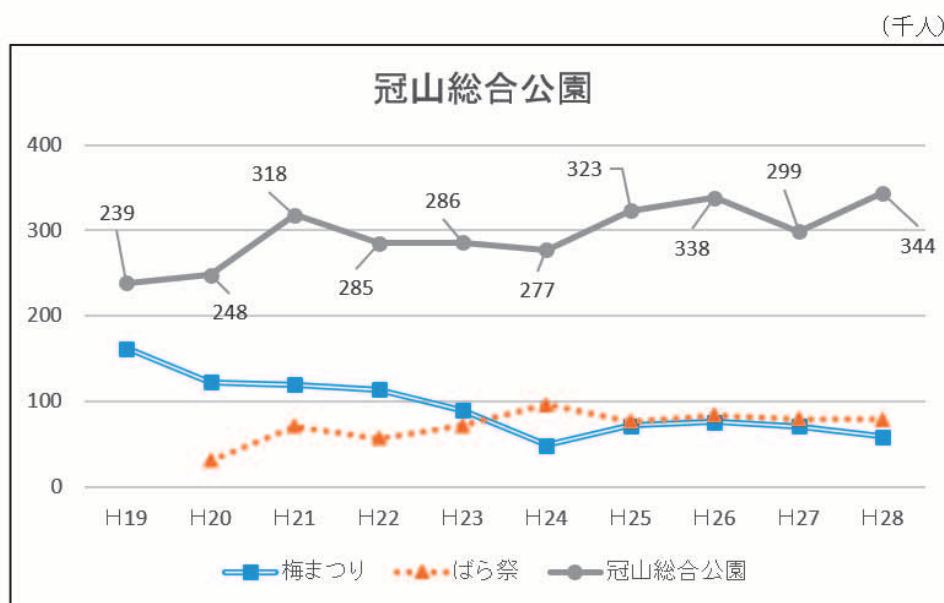


海水浴客数は、室積海水浴場は、年により多少の増減はありますが、毎年2～3万人前後の海水浴客が訪れていて、海水浴客数が固定化してきています。

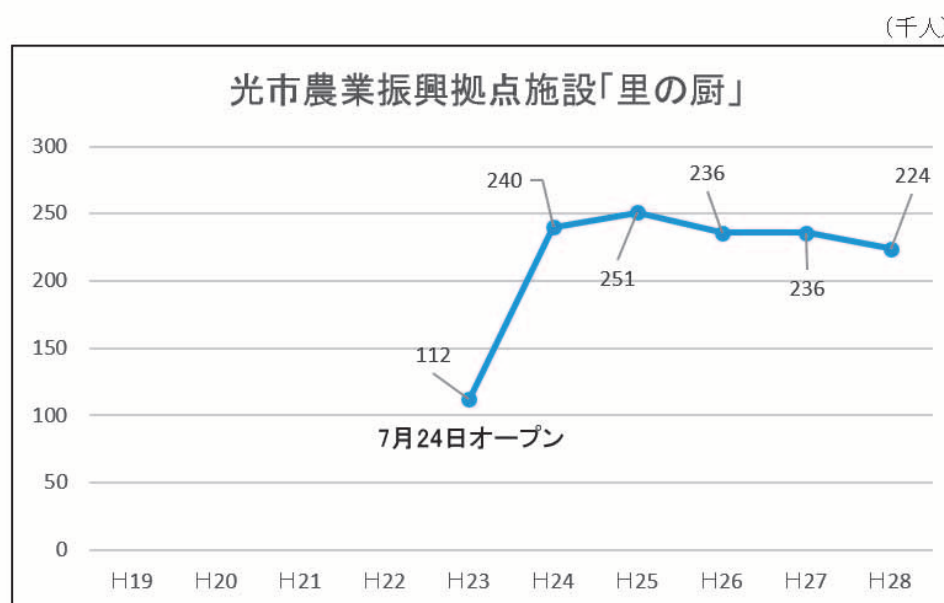
一方、虹ヶ浜海水浴場の海水浴客数は天候に大きく左右され、平成21年は7月にあった中国・北部豪雨の影響や梅雨明けが8月上旬にずれ込んだこともあり、海水浴客が大幅に減少していて、平成22年以降は、客数が15万人前後で推移しています。平成26年も同様に、悪天候による海水浴客数の減少がありました。



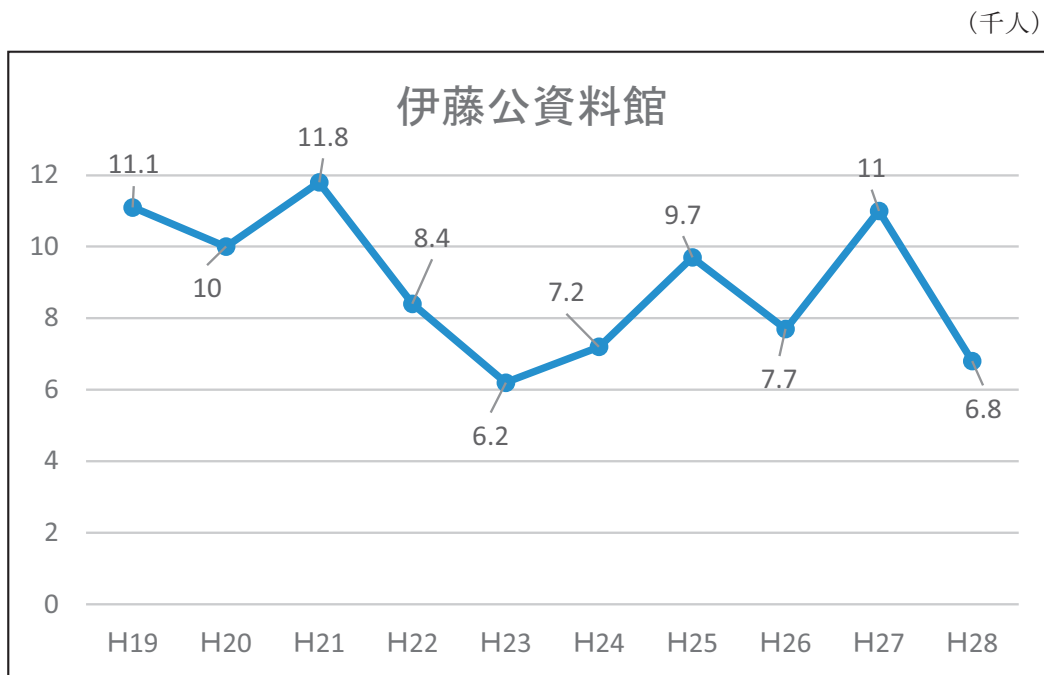
冠山総合公園は、平成19年では、観光客数の半数以上を「梅まつり」が占めていましたが、現在は徐々に減少していき7万人前後で推移しています。一方で、平成20年に始まった「ばら祭」の認知度が徐々に高まり、現在は「梅まつり」と同等か、それ以上の集客をしています。この2つのお祭りが、冠山総合公園の集客数の多いお祭りとなっていますが、2月の「梅まつり」から、4月の「さくら坂」、そして、「ぼたん祭」、「ばら祭」、「しょうぶ祭」へと続く「光の花物語」、夏の「水鉄砲大会」や「サマージャズフェスタ」、秋の「灯花祭」や「秋のばら祭」、冬の「創作イルミネーション」を実施しており、一年を通して、公園と周辺の観光資源を結ぶ賑わいの創出に取り組んでいる成果が現れており、近年では観光客数は30万人前後で推移しています



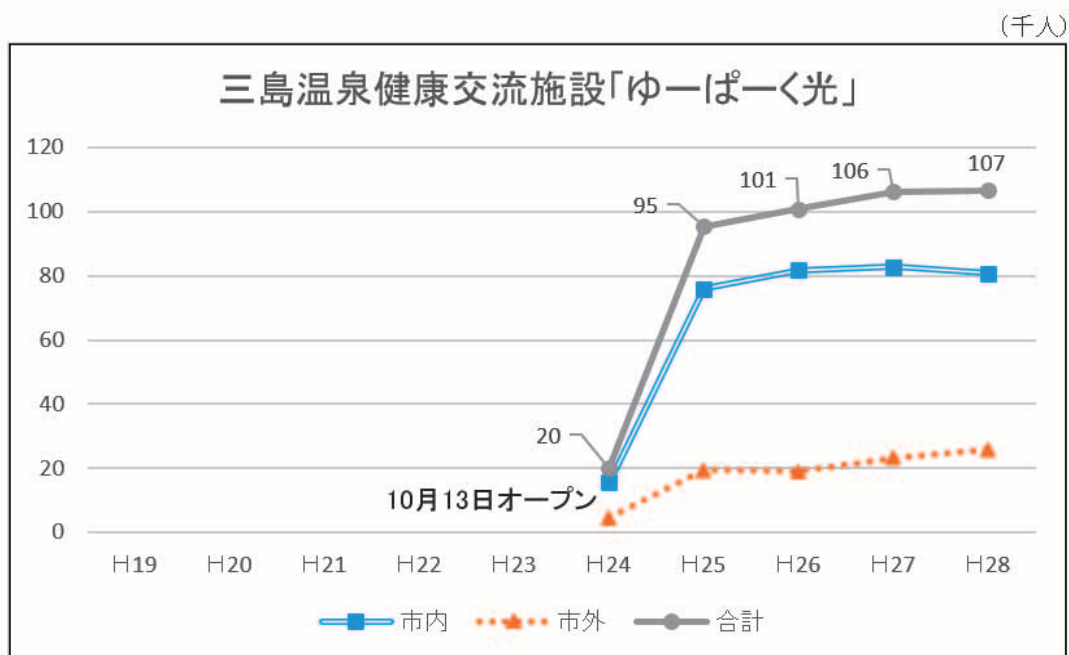
光市農業振興拠点施設「里の厨」は、平成23年7月24日のオープンより、客数は年間23万人前後で推移しています。



伊藤公資料館は、大河ドラマや企画展などの開催等により客数は前後しますが、年間7,000～1万人程度で推移しています。



三島温泉健康交流施設「ゆーぱーく光」は、平成24年10月13日のオープンより、客数は年間10万人前後で推移しています。また、開館5周年を迎える前の平成29年9月9日に来館者が50万人を突破しました。



2 光市観光基本構想の総括

平成18年度に策定した「光市観光基本構想」では、基本理念として『来て・観て・感じて』感光都市・ひかり 人と自然と 歴史が織り成すストーリー」を掲げ、光の魅力がひとときを輝くまちづくりを推進していくための指標として量的目標と質的目標を定めました。

(1) 量的目標

目標策定時の平成17年の観光客数77万5,000人に、本市の潜在的観光客数を考慮した量的目標として、平成28年度の観光入込客数を年間100万人としました。

平成28年度 観光入込客数の目標 100万人／年

平成28年の山口県観光動態調査による光市の観光客数は95万7,000人で、達成率は95.7%でしたが、策定時と比較し、18万2,000人（対平成17年比+23.5%）の増となりました。

(2) 質的目標

観光客の様々なニーズに対応した受入れ環境の整備を進めるとともに、四季を通じて、観光客に喜ばれる観光地づくりを目指し、本市観光資源の再評価と再構築、戦略的な観光施策を展開し、通年型の観光地としての魅力向上と地域活性化の推進を図るため、3つの質的目標を定めました。

光市の魅力を感じることができる観光地づくり

テーマに応じた観光メニューが選択できる観光地づくり

ホスピタリティ（*1）の向上による、市民と観光客との交流社会の実現

*1 ホスピタリティ 心のこもったもてなし。手厚いもてなし。歓待。また、歓待の精神接客・接遇の場面だけで発揮されるものではなく、人と人、人とモノ、人と社会、人と自然などの関わりにおいて具現化されるものである。

【10年間の成果】

「光市観光基本構想」に基づく10年間の主な成果

光市の魅力を感じることができる観光地づくり

- スターライトファンタジーの充実強化（平成19年6月～）
渚のライトアップとして継続（平成23年7月～）
- 観光ガイドブックの改訂（平成26年10月）
- 英語版観光ガイドブックの作成（平成27年7月）
- 観光ポスター「歴史版・花版・夏版」の作成（平成27年9月）
- 新たなにぎわいの創出
 - 「サマージャズフェスタ」（平成23年8月～）
 - 「創作イルミネーション」（平成24年12月～）
 - 「オープンガーデン」（平成25年5月～）
 - 「水鉄砲大会」（平成26年8月～）
 - 「伊藤公生家茅屋根葺き替え」（平成27年2月～）
 - 「明治維新150周年カウントダウン記念企画展 伊藤ドラマ」（平成27年9月～）

テーマに応じた観光メニューが選択できる観光地づくり

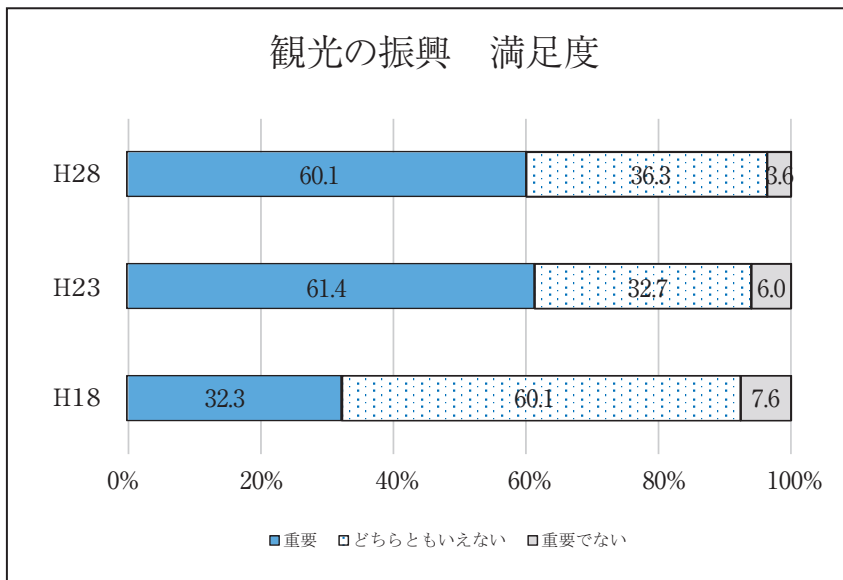
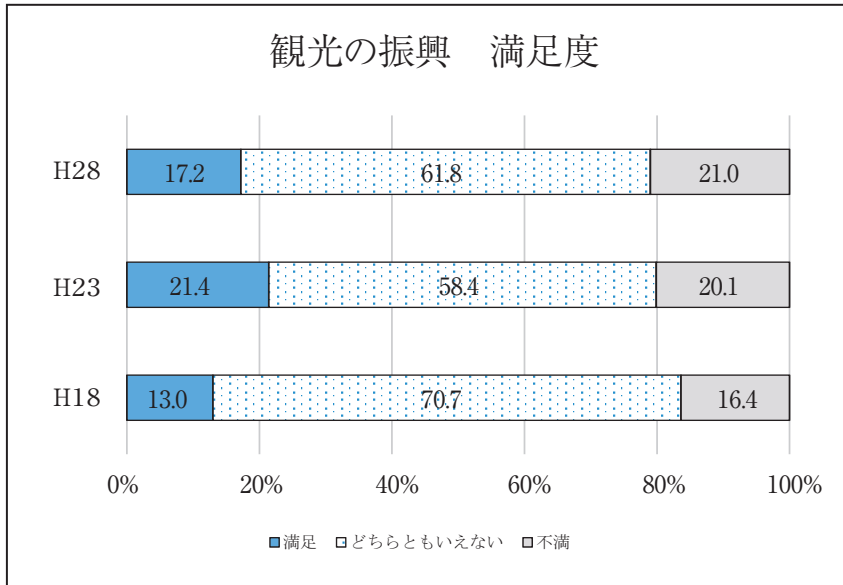
- 冠山総合公園において、ぼたん祭、ばら祭、しょうぶ祭りと続く「光の花物語」を開催（平成20年4月～）
- R188観光連絡協議会の設置（平成19年9月～平成25年2月）
岩国錦帯橋空港利用促進協議会に移行（平成25年3月～）
- 体験型旅行誘致推進事業（平成26年2月～）
- 周南広域観光連携推進協議会の設置（平成27年6月～）

ホスピタリティの向上による、市民と観光客との交流社会の実現

- 冠山総合公園内に観光案内所を移転設置（平成25年9月～）
- 室積ボランティアガイド「古地図を片手にまちを歩こう」を開催（平成28年9月～）
- 世界大会・全国大会の開催
 - 「2011 おいでませ！山口国体 おいでませ！山口大会」（平成23年10月）
 - 「第23回世界スカウトジャンボリー」（平成27年7月）
 - 「ねんりんピックおいでませ！山口2015」（平成27年2月）
 - 「平成28年度全国高等学校総合体育大会（インターハイ）」（平成28年8月）

【10年間の評価】

本市の観光の振興について、市民アンケートによる満足度と重要度の推移をみると、平成18年と比較し、平成28年は「満足・やや満足」、「重要・どちらかという重要」の数値が上昇していますが、一方で「不満・やや不満」の数値も上昇しています。これによると、本市の観光政策は、市民から大きな関心が寄せられているものの、あまり満足できる状況にはないと判断しています。



3 アンケート調査結果

現地調査

場所	冠山総合公園		室積・虹ヶ浜海水浴場
	梅まつり	ばら祭	
期間	平成29年 2月11日 ～3月 5日	平成29年 5月 6日 ～6月21日	平成29年 7月15日 ～8月20日
回答数	204件 (県内：県外=169件：35件)	106件 (県内：県外=92件：14件)	116件 (県内：県外=71件：45件)
	合計426件 (県内：県外=332件 (77.9%) : 94件 (22.1%))		

郵送調査

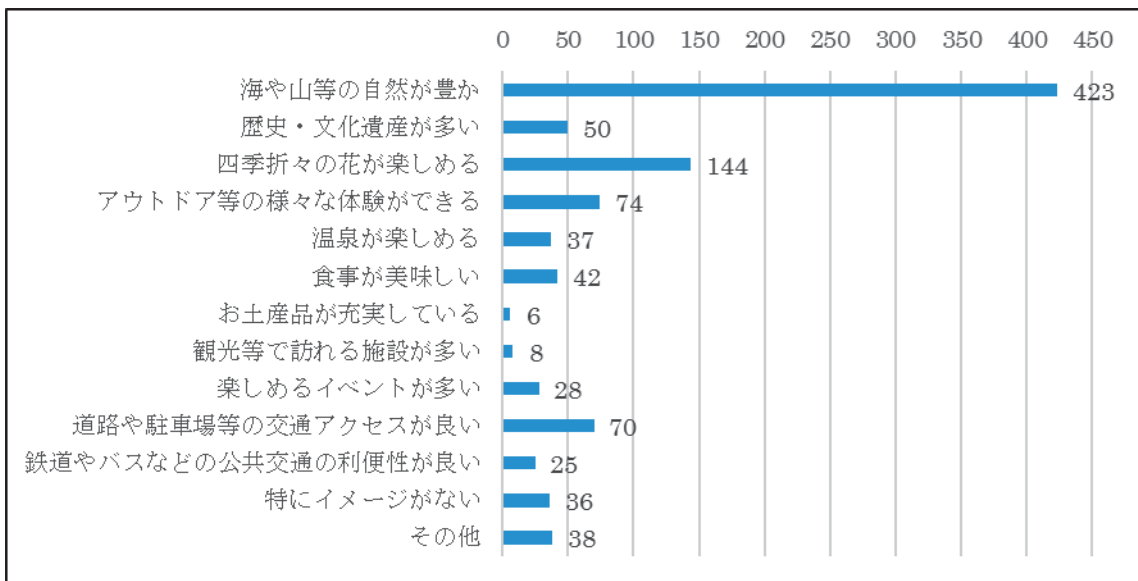
対象	19歳以上の、光市への転入者及び光市からの転出者各1,000人(合計2,000人) 無作為抽出
期間	平成29年7月1日～7月15日
回答数	503件 (回収率25.2%)

(1) 光市のイメージについて

「海や山等の自然が豊か」が423人(43.1%)、次いで「四季折々の花が楽しめる」が144人(14.7%)、「アウトドア等の様々な体験ができる」が74人(7.5%)となっています。

【郵送調査】

(人)

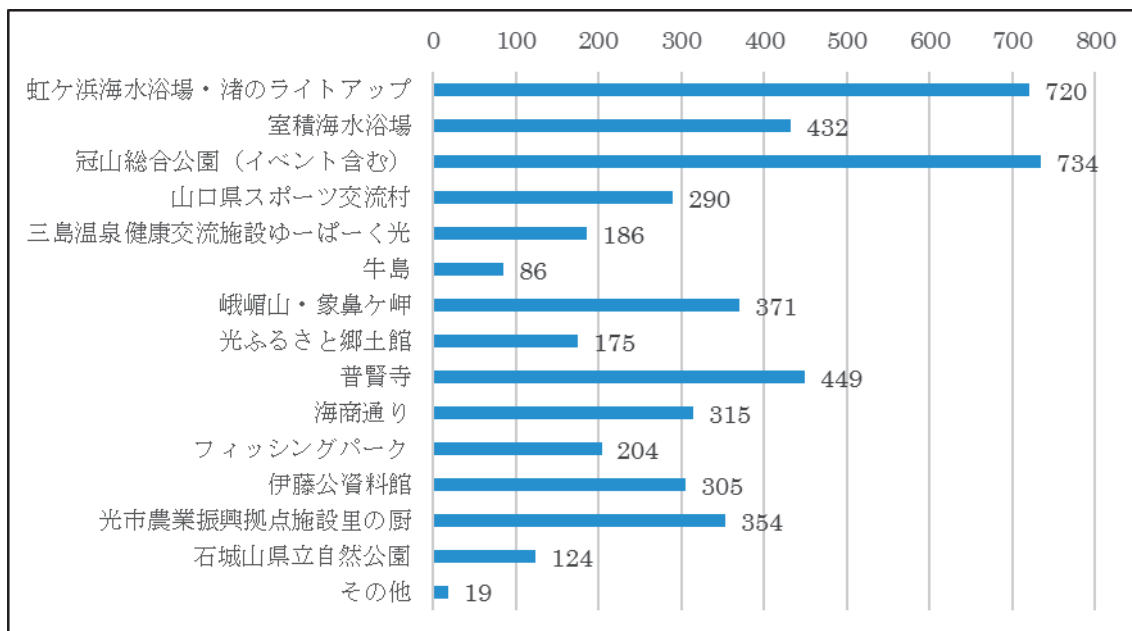


(2) 訪れたこと（予定）のある場所について

「冠山総合公園」、「虹ヶ浜海水浴場」、「普賢寺」、「室積海水浴場」、「峨嵋山・象鼻ヶ岬」、「里の厨」を訪れたこと（予定）のある場所を選択した方が多くなっています。

【郵送調査+現地調査】

(人)

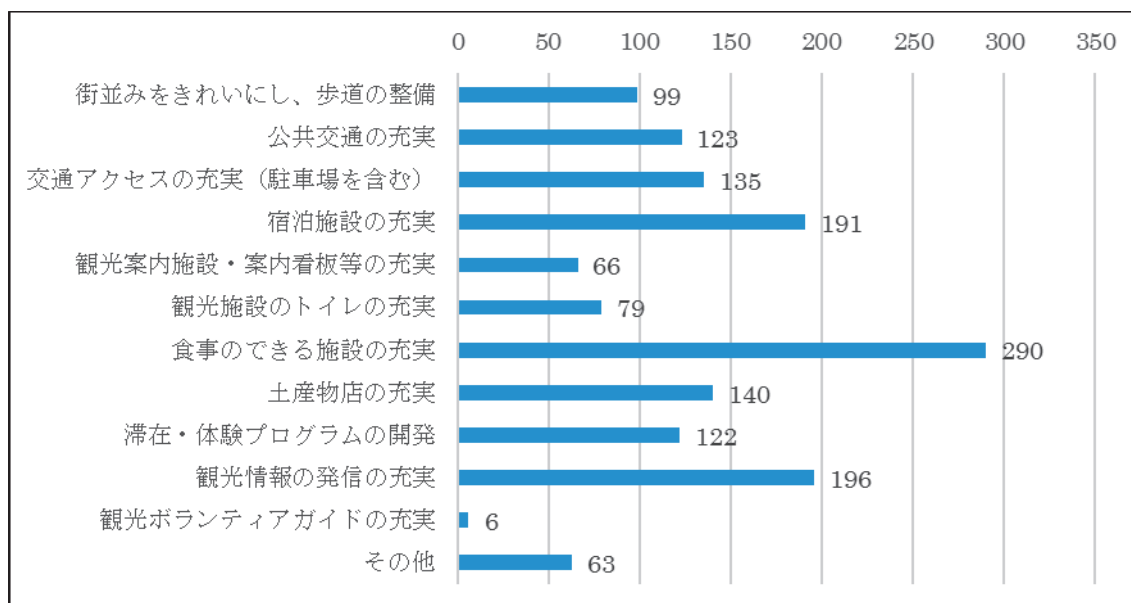


(3) 魅力度向上

「食事のできる施設の充実」、「観光情報の発信の充実」、「宿泊施設の充実」、「土産物店の充実」の回答が多くあり、自由記述にも同様の事項が多く寄せられています。

【郵送調査】

(人)

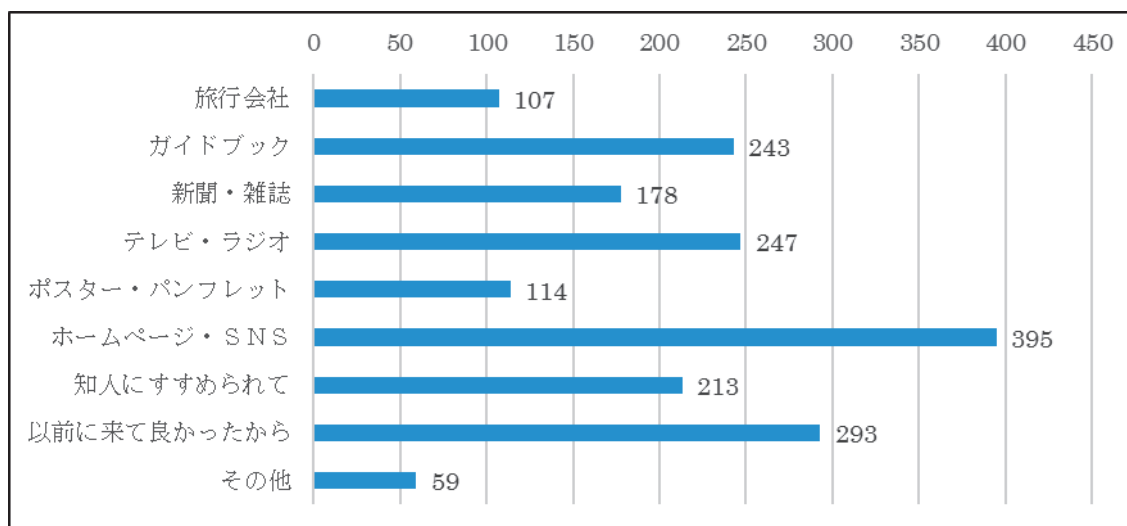


(4) 情報源について

「ホームページ・SNS」、「以前来て良かったから」、「テレビ・ラジオ」、「ガイドブック」、「知人にすすめられて」を選択した方が多くなっています。

【郵送調査+現地調査】

(人)

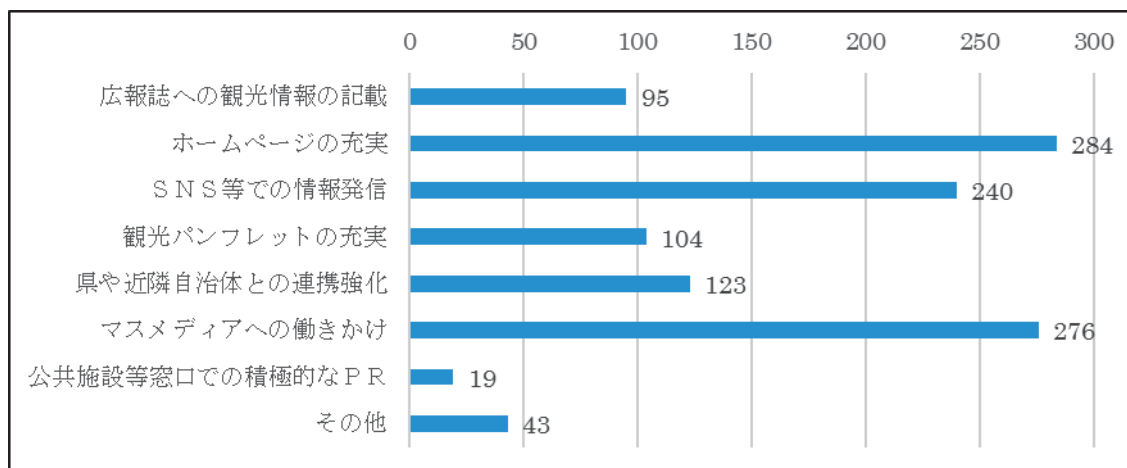


(5) 観光情報発信を充実させる手段

「ホームページの充実」、「マスメディアへの働きかけ」、「SNS等での情報発信」の回答が多くなっています。

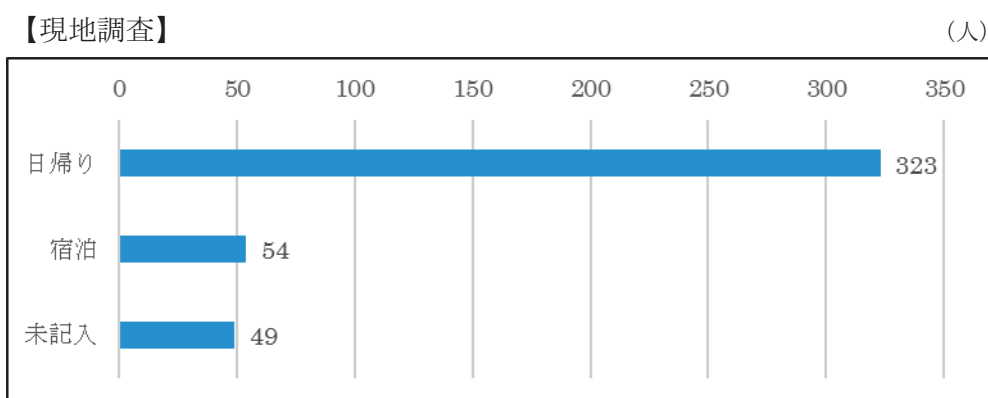
【郵送調査】

(人)



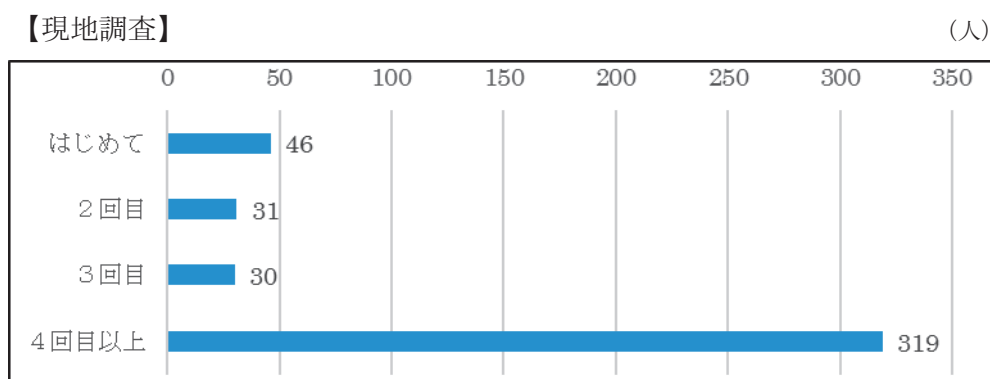
(6) 滞在期間

「日帰り」が298人(78.2%)、「宿泊」が36人(9.5%)で「日帰り」の平均滞在時間は2.21時間となっています。なお、「宿泊」は1泊が多くなっています。



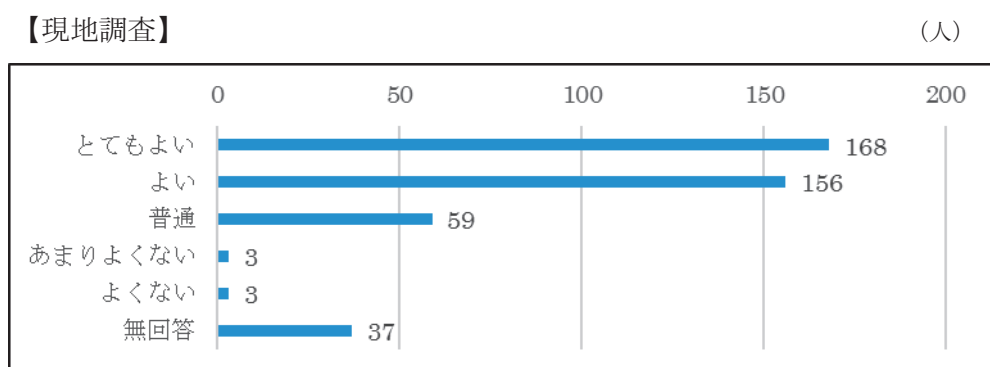
(7) 訪問回数について

「4回目以上」が319人(75.1%)、「2回目」が31人(7.3%)、「3回目」が30人(7.0%)となっており、リピーターが9割を超えています。「はじめて」が46人(9.7%)となっています。



(8) 光市の印象について

「とてもよい」が168人(39.4%)、「よい」が156人(36.6%)と、よい印象を持っている人が76.1%となっています。

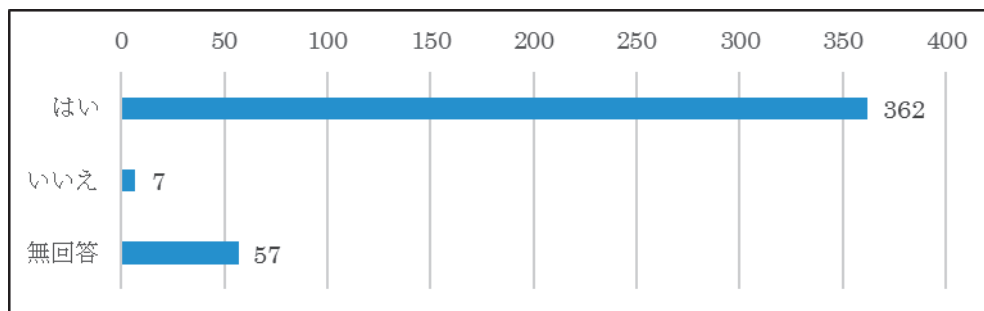


(9) 光市にまた訪れてみたいか

「はい」が362人(85.0%)、「いいえ」が7人(1.6%)となっています。

【現地調査】

(人)



その他の自由記述には、海に関する内容が多く、W i - F i 環境の整備やトイレの洋式化、コインロッカーの設置、更衣室・シャワールームの整備・充実、海の家・カフェの増加、駐車場整備といったハード面の整備のほか、詳細なイベント情報や駐車場位置情報の提供といったソフト面のサービスを要望する声が寄せられています。



三島温泉 健康交流施設「ゆーぱーく光」

4 本市における観光の課題

(1) 観光資源の発掘と魅力向上

本市は、観光資源として、2つの海水浴場をはじめ、初代内閣総理大臣伊藤博文公生誕の地、四季を通じて花木が楽しめる冠山総合公園、三島温泉・光室積温泉などを有しています。

一方、本市のアンケート調査における「光市にどのようなイメージを持っているか」という問いに対する回答では、「海や山等の自然が豊か」が42%、「四季折々の花が楽しめる」が15%と高いものの、「歴史・文化遺産が多い」が5%、「観光地で訪れる施設が多い」が1%と低い結果となっています。

こうしたことから、多様化する観光客のニーズを踏まえ、観光資源一つひとつの魅力を磨き上げるとともに、新たな観光資源の発掘をし、さらに、それら複数の観光資源を相互につなぎ合わせるなど、市全体としての観光資源の魅力の向上が求められています。

(2) 「選ばれる観光地」への取組み

山口県の平成28年観光動態調査では、本市の観光客数は、県内13市中11番目となっています。また、アンケート調査結果によると、本市を訪れる観光客は、県外からの来訪者が約22%、また、日帰り客が約78%、さらに、滞在時間が平均2.2時間という状況となっています。

こうしたことから、魅力ある観光資源づくりはもとより、国・県が取り組むインバウンドへの対応を踏まえ、外国人も含めた県内外からの観光客誘致に向けたマーケティングを展開し、まちの魅力や観光資源の積極的なPRなどにより、多くの観光地・観光情報の中から、本市が「選ばれる観光地」となることが必要です。

(3) 観光産業の活性化

アンケート調査における「光市の観光の魅力度向上には、どうすれば良いか」という問いに対する回答では、「食事のできる施設」や「宿泊施設」、「土産物店」の充実が上位となっています。

こうしたことから、魅力のある土産品や特産品の開発、名物料理を提供する飲食店の充実などにより観光客を誘致し、本市を訪れた観光客の消費活動を地域の観光産業の活性化へとつなげる環境づくりが求められています。

(4) 観光ニーズに対応した新たな視点の導入

観光客の訪問先でのスタイルは、これまでの史跡や施設等を観光するだけでなく、まつりやスポーツイベント、さらには、日常では経験できない体験などを通して、観光先の歴史・文化伝統芸能や、自然景観、食などに触れ、地域住民とのふれあいを楽しむなど、観光ニーズが多様化しています。

こうしたことから、「見る観光」だけでなく、文化・スポーツや農業・漁業などの様々な産業、地域に根ざした活動・イベントを巻き込んだ「体験できる観光」メニューづくりなど、「観光ニーズ」に対応した新たな視点での取組みが求められています。

(5) 観光客の受入環境の整備

本市を訪れる観光客の満足度を高めるためには、本市の観光情報がわかりやすく、簡単に入手できる環境が必要です。また、観光客を受け入れる私たちが、地域の観光資源を知り、地域に誇りや愛着を持ちながら、「おもてなし」という気持ちで対応していく必要があります。

さらに、観光案内機能の充実や駐車場の確保などの受入環境の整備が求められています。



夕日の滝



石城山神籠石

石城山の八合目辺りに約2.6kmにわたって巨石の列が鉢巻き状に取り巻いている謎の遺跡群。東西南北の4つの谷間には高い石の壁を築き、その下には人がやっとも潜れるくらいの水門が設けられています。国指定史跡。